

第 69 回九都県市首脳会議
共同記者会見

平成 28 年 5 月 25 日（水）

○事務局

それではよろしいでしょうか。定刻を若干過ぎましたので、ただいまから共同記者会見を始めさせていただきたいと思います。

なお、質疑につきましては、視察、それから、本日の会議の日程に関するものとさせていただきたいと思いますので、ご了承いただけますようよろしくお願いいたします。

初めに、座長である林横浜市長、ゲストの内堀福島県知事から、本日の会議の所感について、コメントをいただきたいと思います。

それでは、林市長、よろしくお願いいたします。

○座長（林横浜市長）

皆様、こんにちは。取材、誠にありがとうございます。

九都県市として、この福島の地を訪れて、今日は大変感銘することが多くございました。フェリスラテにお伺いしまして、酪農家の方々が、共同で、あのようなすばらしい施設をおつくりになって、今約 500 頭近い牛を育てて事業を復興させようとするご努力を側で拝見させていただきました。

私ももちろん、九都県市として、福島県様に対して、ご支援を続けてきておりますが、実際に田中代表を初め、酪農家の方たちの今日までに至る苦難のご体験を聞かせていただいて、本当に胸にしみました。一層これから私どもにできることをさせていただきたいと思いました。

それから、大変うれしかったのは、内堀知事から「ふくしまの“今”」と題しまして、今までの軌跡とこれからのご方針を聞かせていただいたのですが、ほかの首脳の方もおっしゃっていましたように、大変すばらしいプレゼンテーションで、本当に困難な状況の中でも前向きに県を引っ張っていると思いました。それからもちろん、福島県の皆様がこのような困難な状況の中でも心を一つにしていることがしみじみ伝わってくるようなプレゼンでした。

そして、まだ行き届いていないことが、国としてもたくさんあると思いますので、九都県市としては一丸となって、我々だけでは果たせないことを国にしっかり要求していきたいと思います。

今日こちらで首脳会議を開かせていただき、本当によかったとしみじみ感じております。

なお、秋に、今度は横浜市で第 70 回の九都県市首脳会議が開催されますが、その時に

は知事をはじめ、高校生の方をお招きして、実際に若い方も入れて議論させていただくことも決定しました。

長くなりましたが、以上です。

○事務局

林市長、ありがとうございました。それでは、内堀知事、よろしく願いいたします。

○内堀福島県知事

九都県市の首脳会議、40年という長い歴史の中で、初めて首都圏の外に出て、ここ福島の地で首脳会議を開催していただいたこと、本当にうれしく思っております。

私もフェリスラテの視察、昼食を含む懇談会、さらに首脳会議自身に参加させていただいて、大変申し訳ないのですが、率直に言うと驚きを感じるぐらい、皆さんが福島のことを応援しようという熱い思いを持っていただいているということを実感いたしました。もちろん、この5年2か月、九都県市の皆さんから様々な応援をいただいています。避難者支援、職員派遣、あるいは農産物や観光の振興など、こういったものをいただいているということは十分わかっているつもりだったのですが、9人のトップの皆さんと生で言葉を交わした時、実はあの時間では足りないというぐらいの思いが溢れて、私に対してぶつけられたことがとても印象的でした。私の個人的な思いなのですが、今日、また新たに9人の同志、同じ志を持つ仲間、先輩をいただいたなという、本当に喜びに溢れております。

また特に、今回非常に具体的な提案をいただきました。正直、「こんな具体的なことを明確に言っていただけるのだ」というぐらい、例えば、教育旅行の関係だったり、あるいは職員の派遣に関係することであったり、新産業について、観光について、いわゆる総論ではなくて、こういうことをやりたいということ、各リーダーが明確に私の目を見て言っていただいたこと、本当にありがたく思っております。また、こういった支援の輪を実際に具体的につなげて形にしていく中で、福島の復興をもっと前に進めることができるという確信を持ちました。

結びには共同宣言をいただきまして、先ほど林市長から直接いただきました。冊子そのものは薄いかもしれませんが、私の手にはずしりと重く感じる、すばらしい中身に感激したところがございます。

以上、ちょっと硬い話をしましたが、一つ余談をしてもよろしいでしょうか。

○事務局

お願いいたします。

○内堀福島県知事

これ、いいのかな。昼食会のときに、私は2つ趣向を用意したと言いました。一つは、生の「イカ人参」と「イカ人参ポテトチップス」を食べ比べていただいて、その対比をしていただくというのが1つ目の趣向。そしてもう一つの趣向は、福島の本酒です。

先週、4年連続、「金賞」受賞数日本一に輝いた福島の本酒、今年も18本金賞をいただいたのですが、その中から悩みながら9本選びました。同じお酒を9人に配るのではなくて、全部違うお酒を渡したいと思って、問題は次に、どの銘柄をどの首長さんに渡すか、私は1時間悩んだのですが、決められませんでした。ということで、あみだくじを自ら作りまして、そのあみだくじを、9人の首長さんに引いていただきました。その結果を公表しながら、現物を、イカ人参ポテトチップスと一緒に渡したのですが、今回の九都県市首脳会議の中で最も盛り上がったのは、ある方にある銘柄を渡した瞬間。それは、曙酒造の「一生青春」を森田健作千葉県知事に渡した時でございます。これはネタではありません。本当のあみだくじです。その時が恐らく今日一番、皆さん、大きな声で笑っていただいたと思うのですが、その瞬間、9プラス1、10人の同志の一体感が一番高まった瞬間だったかなと思いました。

余談を言ってすみません。失礼しました。

○座長（林横浜市長）

森田知事は、「え？ これ、わざと僕に当てたんじゃないの」とおっしゃっていましたが、そんなことはないのですよね。

○内堀福島県知事

そうなのです。あれは非常に厳正で公正な抽選の結果で、間違いなく客観的にやった結果、たまたま「一生青春」が青春まっしぐらの森田知事に当たったということでございます。

すみません、余談でした。

○座長（林横浜市長）

引き寄せですよ。

○内堀福島県知事

はい。すごくすてきなご縁だと思いました。

○事務局

内堀知事、ありがとうございます。今、皆様のお手元に本日の首脳会議の結果概要をお配りさせていただいておりますので、併せてご参照いただければと思っております。

それでは、ここで各社の皆様からご質問をお受けしたいと思っております。ご質問の際は、社名とお名前を名乗っていただきまして、ご発言くださるようお願いいたします。

それでは挙手という形でお願いできますでしょうか。

○NHK

NHKの佐久間と申します。よろしく申し上げます。

内堀知事と座長にそれぞれ1問ずつお伺いしたいのですけれども、まず内堀知事に。意見交換で各首長の方から様々な具体的なご提案が出されたと思っておりますけれども、内堀知事が「これは」と思ったものとか、注目されたものというのが何個かあれば教えていただきたいということが一つです。

座長にお伺いしたいのですけれども、フェリスラテで牛乳を飲まれておいしいという感想がありましたが、「横浜にないの？」という話もあったりして、今後役所の売店などに置かれるようなお考えがもしあれば、伺いたいと思っております。

○内堀福島県知事

ありがとうございます。本当にそれぞれの首長さんのご意見すべてうれしかったのですが、あえて申し上げますと、教育旅行の提案、それから職員派遣の具体的なお話、さらに新しい産業でロボットや再エネ、水素について具体的な提案をいただいた、まさに福島が未来に向かってやろうと思っていることに対して、ピンポイントで具体的な提案をいただいたのは、大変うれしく感じました。以上です。

○座長（林横浜市長）

ありがとうございます。本当においしかったです。

ただ、恐らく生産量に限りがあると思っておりますので、あまり流通に乗せられないこともあると思いますが、横浜市には売店がないのです。コンビニエンスストアにお入りいただいているので、そこに仕入れていただけるかどうかですが、個人的には多分お取り寄せができると思っておりますので、その宣伝をさせていただきたいと思っております。私自身は取り寄せます。

○内堀福島県知事

ありがとうございます。

○神奈川新聞

神奈川新聞の松村と申します。

林市長にお伺いします。座長というか、横浜市として伺いたいのですけれども、先ほどの意見交換の場で、専門人材が不足しているところで、横浜市立大学の看護師の話などもされていましてけれども、今後、これまでもずっと支援してきましたけれども、今回の会議を踏まえて、もう少し具体的にどういったところを強化していこうと思われまするか。

○座長（林横浜市長）

横浜市は、今特に、スマートシティプロジェクトで会津若松市と強く連携しています。先行的に国の支援もいただきながら、かなりきちんと取り組んできたので、そのノウハウを会津若松市にお伝えしたいと思います。この取組は続けてやっておりますので、環境未来都市の経験も踏まえて、省エネなどの環境対応について引き続きやりたいと思います。

また、先ほど言うていただきましたが、専門人材の看護師の不足に対しては、横浜市にも共通の課題がありますが、今の福島の状態を拝見すると、横浜市立大学を初め、市内の病院に呼びかけてみるなど、是非取り組みたいと思っています。手を挙げていただいた方にどういう形でご参加いただくかは今後の調整となりますが、これは具体的に取組んでいきたいと思っております。

○福島放送

福島放送の菅野といいます。

内堀知事にお聞きしたいと思うのですが、今、福島県の状況は、やはり「光」と「影」がまじり合っているのが現状だと、それだけ復興への道のりは大変厳しいものだと思うのですが、そうした中で必要なのが、やはり応援する方ということをおっしゃっていました。今日は、共同宣言もありましたけれども、かなり強力な応援が得られたと思うのですが、今後、福島県の困難な課題の克服について、どのように連携を深めてそれに取り組んでいきたいかというのをお聞かせください。

○内堀福島県知事

今日、九都県市の首脳が全員、知事そして市長が、まさに福島に真っすぐ来て、生で感じて議論をしていただきました。そしてそこで具体的な提案をいただいた。今後は、それぞれ実務当局を通じて、この具体的な提案をどう形にするかということをお早急検討

を進めていきたいと思ひます。また、でき得れば、秋にまた、九都県市首脳会議が今度は横浜で開催されますし、福島県の高校生を呼びたいというお話もいただきました。そういうところに私自身も日程が合えば是非参加して、それまでの期間にある程度実務的な議論というのは進められると思ひますので、今日この福島の地で開催していただいたものが半年たつてどの程度前に進んだか、あるいは今後どうするかというところを、一歩前進させて見せることが今日の会議の一番の成果になるかと思ひます。

そしてやはり、今日こういった連帯をいただいた、これで終わりにするのではなくて、次回も行って、改めてお礼を申し上げて、また皆さんに笑顔で会えること、これがやはりつながっていくことにつながると思ひます。そして、今度、向こうに行った時は、首長さんとの意見交換も大事なのですが、また観光のPR等も重要だと思ひますので、首都圏の多くの方に福島の地に来ていただけるように、様々なPRを積極的に進めたいと思ひます。以上です。

○日本農業新聞

日本農業新聞の塩崎と申します。

本日、午前中にフェリスラテに行きましたけれども、林市長に聞きたいのですが、具体的に田中代表とどういった話をされて、どういった部分で感銘を受けたのかということと、九都県市市長として基幹産業である農業に対して、どのような協力ができるかという部分を教えていただければと思ひます。

○座長（林横浜市長）

ご質問ありがとうございます。

田中代表には、まず、最初に、胸が痛くなるような今回の原発事故が起きた時に、すぐ避難しなくてはいけないため、大切な牛たちや、豚、鶏などをそのまま置いてこなくてはいけなかったこと、置いてきた動物たちが野生化したといった非常に苦しい思いを聞かせていただきました。

そして、個人経営で、育て方も違う5人の酪農家が集まって、組織化して酪農をされることのご苦勞についても伺いました。

牛の育成、子牛の育成を、かなりIT化して、データをとりながら品質のいいものをつくっていくという努力などに本当に感銘しましたし、自分が一緒に暮らしていた大事な動物たちとの別れを乗り越えて、今、新しいところに向かってもう一回築いていこうという姿に非常に感銘しました。

本当においしかったです。ああいうおいしいものを飲んだり、食べたりしたことはなかったのですが、東京にも酪王カフェオレは置いているということなので、そういう意味でも、私は本当によかったです。

また、牛が可愛くて、いけなかったかもしれませんが、手を出したら、ここをザラザラッと舐めてもらいました。

○内堀福島県知事

そうですか。

○座長（林横浜市長）

本当にありがとうございました。以上です。

○日本経済新聞

日本経済新聞の天野と申します。

それぞれに一つずつお伺いいたします。

内堀知事なのですが、全国の自治体から福島には支援があると思いますが、特に、この首都圏の自治体からの支援というもので、他とは何が違うとお考えになりますか。

もう一つは林市長なのですが、こちらの福島で開催されて、むしろ九都県市が福島から何か学ぶこと、何かお感じになるものがあれば教えてください。

○内堀福島県知事

九都県市と福島の関係の特色は2つあります。一つは、距離が近いということです。新幹線で郡山ですと、1時間半かかりません。非常に距離的に近い。であるがゆえに、震災前から非常にお互いの交流が深かった。だからこそ、今回の東日本大震災、地震、津波、原発事故を、首都圏の方々は人ごととしては捉えておられない。これが1つ目の特殊性だと思います。

そしてもう一つ、日本の各地と違うのは、首都圏は人口が圧倒的に多いということです。福島県がこれから産業面、観光面、あるいは人材育成面等で、もう一回本当の意味で復興を遂げていくためには、首都圏の協力なくしてはできません。日本の首都、そしてその首都を中心とした非常に大規模な人口の皆さんが、一定の共感を福島に持っているかどうか、これが、福島が真の復興を果たせるかどうか、この命運を握っていると思います。

そういう意味で、今日の九都県市の会合を40年の歴史の中で初めて福島の地でやっていただいて、お互いにすごく共感の輪を高めることができたというのは、非常に意義が

あったと思います。以上です。

○座長（林横浜市長）

震災が風化してしまうという声が、5年を経て、最近増えている中で、私たちとしては、風化させてはならないという意味でも、今回、福島で開催しようということになりました。

会議の間も、内堀知事が「ありがとうございます」とおっしゃいましたが、こちらこそ「ありがとうございます」というのが本当の気持ちです。

自治体は現場で生きている人たちばかりなので、すぐに共感できることがあると思います。実際に今の福島の状況が、大変失礼な言い方かもしれませんが、立ち直っており、農産物も何の問題もないことなどを私たちは肌で感じました。

プレゼンテーションも非常に克明にやっていただきましたし、フェリスラテに伺った時の行き帰りのご説明もすばらしかったです。大変勉強になりました。

それから、こういう原発事故でここまで基幹農業、特に酪農などが壊滅的になってしまったことなどを間近で聞かせていただいて、私ども横浜市も都市型農業というのをやっておりますので、いざ震災に遭った時に、どのように危機管理をするのかということについても、これ以降、深く思いをいたすことになると思いますし、本当に考えることになると思います。

やはり、自治体が手を取って、お互いの強みを引き出し合いながら連携することが、何よりも強いのだということを、今回、確信しました。以上です。

○テレビ神奈川

テレビ神奈川の石川と申します。

それぞれに一つずつお聞かせいただければと思います。

内堀知事にお聞きしたいのですが、次の九都県市では横浜に学生さんをお招きしてというような話もありました。今後、九都県市に期待することがあったら教えていただきたいというのと、林市長に、座長として今回この会議を見られていて、印象的だった点を教えていただきたいと思います。

○内堀福島県知事

まず、九都県市の皆さんに期待していること、それは、これまでと変わらぬ支援をできる範囲で結構ですので継続していただくことだと思います。残念ながら福島の復興には長い時間がかかります。そういう意味では、九都県市が可能な範囲で福島県に対して

支援をし続ける「継続」ということが一番のキーワードになろうかと思います。例えば、実際に避難されている福島県民に対するお手伝いであったり、職員派遣であったり、あるいは農産物や観光のPR、今もう既にやっています。そういったものをできる範囲で継続していただく。あとまた、今日のようなこの交流、これはまた非常にいい感じなのです。首長同士もいいのですが、担当の職員さん同士もかねてからいい関係をつくっていただいています。後ろでうなずいている人たちがいますが、こういう関係があつて、顔の見える関係、声の聞こえる関係があつてこそ、本当の意味で日本の自治体の強さ、先ほど市長が言われたとおり、“レジリエンス”が生まれてくると思っていますので、お互いの交流をもっと息長く続けていければと思っています。以上です。

○座長（林横浜市長）

私が本当に痛感しましたのは、フェリスラテに伺って、直接お迎えいただいて、いろいろ現場を見せていただいたことありますが、ご本人が隣にいらっしゃるので恐縮ですが、内堀知事の本当に真摯な、魂を感じるプレゼンテーション、そういうことにみんな触発された感じがしました。

今までも私は九都県市に参加しておりますが、ここまで心を寄せて、共感して一緒にやりたいと、九都県市の人たちが内堀知事を入れて一致したことがとても印象的でした。

また、政治の世界や、行政の世界の中で、極めてエモーショナルな会議というのは少なく、そういうものは出さないようにしますが、内堀知事はそういうことをきちっとおっしゃるということです。政治家としてはなかなか少ないと思いますが、そういうことに呼応して、本当にいいところがみんな出たなと思いますので、こういう本当の絆を続けていきたいですし、こういった部分まで見ていただくと、若い職員の方も非常に育つのではないかと思います。

○内堀福島県知事

そうですね、同感です。

○事務局

ありがとうございました。それではお時間も大分参りましたので、これを持ちまして会見を終了させていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。